

超高齢社会に対応したごみの収集方法等に関するワークショップまとめ

1 ごみの出し方について

【課題】

市内では、適正排出が進んだ地区と、例えば単身者向けの集合住宅における不適正排出が目立つ地区が混在している状況にある。

【改善の方向】

全市的に適正排出を推進するためには、一人一人が街をきれいにしようという自覚を持ち、モラルを向上させることが重要である。

【改善案】

- (1) 不適正排出が目立つ集合住宅について、不動産関連の協会や管理会社にごみの適正排出に係る指導及び管理の協力を依頼する。
- (2) 集積所に指導ボランティア等を配置して適正排出の指導を行う。
- (3) 集積所への立て看板や張り紙の掲出又は排出品目ごとに専用の箱を設置する。
- (4) 分別の徹底が優れた集積所の取組や不徹底な集積所の悪い事例などの内容を広く市民に紹介する。
- (5) 希望する市民にスマートフォン等で排出日や品目を配信する。
- (6) 外国籍の市民にルールを周知徹底する。※文化の違いを超えて取り組める方法について今後のワークショップで議論をしていく必要がある。

2 集積所の管理

【課題】

集積所を清潔に管理できている場所と、収集日を守らない、収集後にごみを出す、指定されたごみ以外のものを出す、指定された場所以外にごみを出すなど、ルールが守られず、集積所が汚れている場所が混在している。

また、自宅から集積所までの距離に差があり、雨の日などに快適なごみ出しができない場所がある。

【改善の方向】

ごみ出しのルールを徹底するとともに、自治会加入の有無に関わらず、市民全員が責任を持って集積所の清掃や管理することが必要である。

【改善案】

- (1) 集積所の管理体制及び責任を明確にする。
- (2) 自治会加入の有無に関わらず、利用する人が当番制で集積所を清掃するシステムを構築する。併せて、集積所の管理に参加できない人の戸別収集・有料化を検討する。
- (3) 環境保全指導員及び環境美化部長の認知度を高め、集積所が清潔に保たれるよう地域で指導を行う。
- (4) 全ての集積所に黄色のネットや蓋つきの籠を設置する。

3 ごみの減量について

【課題】

買い物において不要なものを購入する、調理時に必要以上に作りすぎるなど必要以上のものを消費するライフスタイルが見受けられる。

【改善の方向】

減量化は更に推進すべきであり、無駄のないライフスタイルへの意識改革や先進的な地区や人の育成が必要である。併せて、ごみの有料化について検討が必要である。

【改善案】

- (1) 商品に付随する廃棄物について、販売店に対してはスリムストアー拡充の推進と、販売店での回収を促進するとともに、市民に対しては、スリムストアーの利用促進と購入店に戻すことを意識付ける。
- (2) 生ごみの減量を推進し、家庭用コンポストの普及や水切りの徹底、学校給食施設から発生する生ごみの資源化を推進する。
- (3) 学校教育の中で、ごみの減量に係る教育を継続して行う。
- (4) 市民一人一人が、ゼロウェイスト（ごみを出さない社会の構築）を目指す。
- (5) 地区ごとのごみ量を把握し、一人当たりのごみ量が少ない地区に懸賞金を出すなどの制度を導入する。
- (6) ごみの分別マイスターや事業者がエコを提案するエコマイスターなどの制度を導入する。
- (7) 市民の意識を高めるために、家庭ごみを有料化する。

4 ごみの資源化について

【課題】

特に紙ごみの分別が不徹底であり、資源化を徹底していく必要がある。

一方で、紙ごみは分別が細分化しているため、分別の仕分けが複雑である。

【改善の方向】

販売店の資源回収を有効に利用することが必要である。

学校給食やコンポストの普及により、生ごみの資源化することが必要である。

紙ごみの資源化については、誰もが容易に分別できる方法を見直す必要がある。

【改善案】

- (1) 紙ごみについて、分別を徹底する。一方で、現行の分別方法は複雑すぎるため、一目で理解できるような周知方法を検討する。
- (2) 家庭や学校教育の中で、ごみの資源化に係る教育を継続して行う。
- (3) 転入者に対してきめ細やかな説明を行う。
- (4) 更なる資源化を推進するために、戸別収集、有料化を導入する。
- (5) 生産者や販売店が紙資源の簡易な分別のための技術の開発、普及等を推進するよう国や県を通して働きかける。

5 望ましいごみの収集方法

※4月以降に開催されるワークショップを通して内容を深め、【課題】、【改善の方向】、【改善案】としてまとめていく。

※事前ワークシートの提出（9枚）

- (1) ステーション収集を変えない：6人（うち有料化は実施する：2人）
- (2) 戸別収集、有料化を導入：2人
- (3) 不明1人

収集方法	良い点	悪い点
ステーション収集	<ul style="list-style-type: none"> ・一箇所に集められるので作業面、経費面で効率的 ・動物の被害を受けにくい。 ・近隣交流を図ることができる。 ・安否確認ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に単身者の集合住宅で不適正排出が目立つ。 ・集積所からの距離や天候による負担、交通量の多いエリアにおける危険性 ・集積所の清掃が必要 ・カラス対策 ・地区外からの不法投棄
愛の一声ごみ収集	<ul style="list-style-type: none"> ・安否確認ができる。 ・ごみ屋敷の発生を防止できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人のプライドの尊重 ・介護者の負担増（分別など）
戸別収集	<ul style="list-style-type: none"> ・遠くまで運ぶ必要がない。 ・排出責任が明確になり、減量化、資源化を推進できる。 ・戸別収集は、将来的に必要（モデル地区での実施検証） 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合住宅の課題は残る。（管理者の有無による温度差や集積所の管理等） ・費用の負担増による有料化 ・高齢で分別が困難になっている人へのフォローが必要 ・動物の被害が心配

戸別収集は、将来的には必要になるかもしれないが、当面はステーション収集を維持し、愛の一声ごみ収集の拡充や地域の助け合いにより高齢者のごみ出しを支援していくことが肝要である。

(1) ステーション収集

(ア) 集積所の設備を改善し、品目ごとの排出場所の表示や品目ごとに箱を設置する。また、利用者全員が集積所の管理に責任を持つシステムを構築する。

(イ) ごみ袋への記名方式を導入する。

- (ウ) 交通量の多い街中について、高齢者の交通事故を防ぐため、早朝・夜間収集を検討する。
- (エ) 地域で助け合う気風を醸成する。
- (オ) 集積所が少なく自宅から集積所が遠いエリアについて、設置箇所の増設を検討する。
- (2) 愛の一声ごみ収集
 - (ア) 愛の一声ごみ収集を拡充し、高齢者のみならずごみ出しが困難な状況にある人が容易に利用できるシステムに改善する。
 - (イ) 地域包括センターや福祉事業者と連携し、プライドの尊重とプライバシーの管理に留意をしつつ、潜在的に戸別収集が必要な世帯を把握し支援する。
- (3) 戸別収集
 - (ア) 戸別収集の導入又は希望者への戸別収集導入について、検討する。
 - (イ) 戸別収集についてモデル地区を定め、実施・検証する。
- (4) 有料化
 - (ア) 家庭系ごみの有料化を導入する。
- (5) その他
 - (ア) 適正分別に努める人が報われるシステムを構築する。
 - (イ) 超高齢社会を考慮した望ましいごみの収集方法について市民アンケートを実施する。
 - (ウ) 事業者との連携（新聞配達業者、宅配業者、マンションの管理者）により、高齢者のごみ出しを支援する。